

科学技術の潮流

JST 研究開発戦略センター

167

信頼関係築く

日本の研究力の低下が言われており、最近も、注目度が高い論文のなかで日本の比重が落ちていることが話題となった(図)。現在、その解決法として大学改革やファンディングのあり方などが活発に議論されている。こうした目に見える「仕組み」が重要であることに異論はないが、ここでは少し異なった視点、すなわち人脈、いわばコネとツテの意義について考えてみた

い。

国外の科学者の世界では個々の自己が特に尊重されるが故に、彼らと接するときには相手を尊重しながらも自己を堂々と主張していくことが大切である。

そこでは、自分の専門分野のみではなく、関連分野から科学そのもの、あるいは、時には文学、芸術、などにも触れることによって信頼関係を構築することができよう。友を見つづける者は宝を見つけたのである。研究業績は科学者の命運を握るが故に、論文

留学で育む

世界で通用する人脈を育むのに最も有効なのは留学である。留学

手が大きな問題ではない。いわば、人脈形成を通じて得られる暗黙知のようなものである。留学中にできた友人たちと築いた信頼関係の科学の国際的發展につながる。

科学が多様化・巨大化している現在、国際的な共同研究の構築・推進の原動力にもなるであろう。

また、この文脈において、これからの日本では科学技術外交がますます重要になることを考えたとき、今の日本ではそれを担う人材が育っているだろうか、案ずるところもある。

(金曜日に掲載)

科学の発展「人脈」重要



科学技術振興機構(JST)研究開発戦略センター 谷口 維紹
上席フェロー(ライフサイエンス・臨床医学ユニット)

スイス・チューリヒ大学大学院博士課程修了。がん研究会がん研究所部長、大阪大学、東京大学教授などを歴任。東京大学名誉教授。米国科学アカデミー、米

引用数が多い科学論文数(上位10%)の国別順位

